2月の園便り

新潟青陵幼稚園　　２０年

　ゆき・ゆき・ふってくる・ゆき・ゆき・ふってくる。天をみあげれば、どこからでてくるのかわからないほど、つぎからつぎへとうまれてくる。　おともなくおりてくるわた雪、ふわふわとおどるぼたん雪----------雪がつもった街は、まっしろになって本当にきれいですね。　その美しさを子どもたちは敏感に感じて、「きれいだねぇ・・・」と感嘆して見入っています。木々に積もった雪を手にとって、ぎゅっと握れば、雪玉のなげっこがはじまって雪合戦となり、雪を丸めて転がせば雪だるまができて-------砂がついてもなんのその、真っ黒の雪だるまができていることもよく見られます。雪を踏みかためて靴の底でこすっているとつるつるになって、ミニミニスケート場となり、プリンもケーキも雪で作れば特別に素敵になって、上等のプリンと上等のケーキの出来上がり、雪の日にスノーズボンですべる滑り台は、いつもと違って超スピード！！　池に氷が張れば、花壇に入らないように気をつけながら、しゃべるで池の氷をすくいあげようと精一杯体を伸ばし、池のふちに寄ってきた氷をつかんで引き上げようとする。手袋がぬれるのにもかまわずに一心に氷に手を伸ばす-------全力を傾ける姿です。

　一つひとつのことに全身で取り組んでいる子どもたち、子どもたちにとっては、この取り組んでいる時、その時（過程）が、とても大事なのです。遊びが完成したら、子どもたちにとっては、その遊びはほぼ終わっているのです。　遊びの過程の中で、どのようにしようかと自ら考え、試し、調べ、知るという、真の意味での知的な活動をしているのです。（子どもの遊びを“遊び”という名前ではなく、“主体的な学び”であることを表す言葉に変えたいな～と思うのです）　冬の季節は、特に新潟は、どんよりした空が続いて、気持ちも暗くなりがちですが、子どもたちにとっては、この季節ならではの楽しみがいっぱいなのでしょうね。コートや手袋が濡れてしまって、気持ち悪さを感じたり、寒くてかじかんだ手を温かい手で包んでくれた先生のやさしさを感じたり、冷えた体で暖かな部屋に入れば、その暖かさにほっとしたり、子どもたちは、冬の厳しさも合わせて、冬を楽しんでいます。　　そのうち、冬の海が白波をたててよせてくる様子や、ブロックにぶつかって砕け散るダイナミックな白波を見に行けたら良いな～と思っています。自然の厳しさ・偉大さを感じ、畏敬の念をも感じることができるでしょう。子どもたちはどのようなことをも、自分の活動に取り入れ全力で取り組みます。これが、やがて大人になったときの勤勉さに繋がるのですから、全力で取り組むことができる環境を確保しなければならないと思っています。そして、こうした幼児期の教育の大切さを多くの人に知っていただきたいと切に願っています。